

3. 地域・市民との協働

豊中市立図書館は、子どもの読書活動推進・障害者サービス・多文化サービスなどさまざまな分野の事業に市民との協働によって長年取り組んできた。豊中市における子ども読書活動は、「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」や「おはなしボランティアポケット」ほか市民とともに築き上げてきたものである。また障害者サービスでは、市民グループによる点字図書・録音図書・さわる絵本の製作や対面朗読などにより、目や体の不自由な人への読書環境が整備されてきた。

令和2年度は対面での取り組みは実施できなかったが、ブックスタート事業「えほんはじめまして」、障害者サービス、しょうないREK、北摂アーカイブス事業、図書館サポーターの活動などにおいてWeb会議システムを活用したボランティア研修やミーティング、対面朗読の実施、感染予防対策を講じたうえで一部開催など方法を工夫して実施した。

図書館は、資料・情報と人をつなぐ役割を基盤に、人と人、地域や組織がつながるすべての人にとっての「わたしの図書館」であることをめざしている。協働により、市民感覚が事業に反映され、地域に根ざした図書館活動につながると考えている。

◆ しょうないREK（R：リサイクル E：イベント K：瓦版[情報]）

正式事業名：「リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業」

平成16年度協働事業提案制度において、市民活動団体「地球ママくらぶ」から「リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業」が提案された。以降16年にわたり、庄内図書館3階での常設販売や地域のイベントでの出張販売（Recycle）、地域活性化のためのイベント実施（Event）、地域情報誌瓦版の発行（Kawaraban）を柱として活動している。

令和2年度は、活動開始15周年記念シンポジウム「ミナミのミライ協働サミット（仮）」の開催を12月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、やむなく中止した。

リサイクル本の出張販売を予定していた地域のイベントの多くが中止となる中、「とよなか市民環境展2020」・「地域こだわりマルシェ&野菜市場」（いずれも市立環境交流センター）・「庄内つくるフェス」（グリーンスポーツセンター）で古本市を実施。常設リサイクル本販売は、臨時休館中など一時休止期間をはさみながら実施し、合計1,529冊を販売した。

そのほか、とよなか地域創生塾受講生が南部地域のフィールドワークの一環として庄内図書館3階協働事業スペースを視察。また慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻生から、しょうないREKの多文化共生支援活動についてオンラインによるインタビュー取材を受けた。

今後は図書館と地域の活性化に加え、令和4年度に開設予定の「（仮称）南部コラボセンター」での活動も視野に入れた取り組みをおこなう。



「庄内つくるフェス」での古本市



◆ 千里文化センター「コラボ」

5つの施設（公民館・図書館・介護予防センター・市役所出張所・保健センター）がひとつの建物に集まる利点を生かし、行政サービスや文化活動を通じて多くの市民が利用・交流する、市民と行政の協働の場をめざしている。図書館もその一翼を担い、市民実行委員会・千里文化センター主催事業に関わっている。

地域住民を講師とした「千里コラボ大学校」は、「アイヌ民族とのコラボ」をテーマに開催。図書館職員が関連資料のリストを作り資料紹介や展示をおこなった。テーマにそって参加者がお勧めの本を持ち寄る『ブック・トーク&トーク「この本読んだ会」』では、職員が関連本紹介もおこなっている。「なが〜いコロナ自粛生活 この時期に読んだ本を紹介しあいましょう」という企画もあった。「多文化カフェ」でも、テーマとなる国や地域の関連資料の展示・貸出をおこなった。

10年間、市と協働でさまざまな事業を開催してきた「千里文化センター市民実行委員会」が令和3年3月末をもって解散し、これらの事業も終了となったが、「千里親子ふれあい広場」での読み聞かせや「コラボまつり」（令和2年度は実施されず）などをはじめ、今後も連携をおこなっていく。

◆ 北摂アーカイブス ～地域情報アーカイブ化事業～

市民ボランティア「地域フォトエディター」とともに地域の記録（写真）を収集・デジタル化しキャプションをつけて Web 上で公開している。図書館は地域情報アーカイブ化事業実行委員会事務局として、市民とともに活動している。



蛸池図書館「北摂アーカイブス写真展」



千里図書館「北摂アーカイブス写真展 北摂の今と昔」

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により講演会など催しは中止し、千里、蛸池図書館でパネル展を開催した。また、地域フォトエディターとの定例会は、Web 会議システムを利用しておこなった。

◆ 関係団体一覧

子どもの読書支援	障害者・高齢者読書支援
<p><子ども文庫></p> <ul style="list-style-type: none"> *おひさま岡町文庫 *おひさま文庫 *きずなの里文庫 *くれよん文庫 *Keiおばさんの本の部屋 月よう文庫 *そよ風文庫 *つみ木文庫 *仲よし文庫 *にじいろ文庫 まめぶんこ ゆめのき文庫 (*印は豊中子ども文庫連絡会加入文庫) 	<p>大阪声のグループ 豊中点訳会 グループ・エコー さわる絵本 かすみ草</p> <p>多文化読書支援</p> <p>国際交流の会とよなか（TIFA） おかまちおやこでにほんご しょうないおやこでにほんご せんりおやこでにほんご せんりにほんご</p> <p>読書会</p> <p>つぐみ読書会 とよ読書会（豊中市立図書館利用者の会） 豊中読書会 原田読書サークル 木よう読書会</p>
<p>おはなしボランティアポケット 豊中紙芝居の会 千里ストーリーテリングの会 野畑おはなしの会 おはなしたまてばこ おはなしたんけんたい 紙芝居クラブともだちや</p>	<p>朗読グループ</p> <p>草の実会</p> <p>その他</p> <p>豊中図書館の未来を考える会 しょうないREK 地域情報アーカイブ化事業実行委員会</p>

◆ 市民との取り組み事業

事業名	団体名	開催数 (日数)	実施館
子ども読書活動連絡会	子ども読書活動連絡会委員	2	岡町
子どもと本をつなぐボランティア講座	おはなしボランティアポケット	6	岡町
子どもと本のつどい	豊中子ども文庫連絡会	5	岡町
子どもと本のまつり		14	岡町
		8	野畑
おはなし会（おはなしポケット）	おはなしボランティアポケット	1	庄内
おはなしもこもこ		1	蛸池
おはなしプレゼント 等（含：打ち合わせ）	野畑おはなしの会	11	野畑
ときどき！おはなし会・おはなしワールド 等 （含：打ち合わせ）	千里ストーリーテリングの会	2	千里
しょうないREK実行委員会 等	しょうないREK実行委員会	10	庄内
古本市（地域こだわりマルシェ&野菜市 庄内つくるフェス とよなか市民環境展）	しょうないREK	3	庄内
リサイクル本コーナー		10	庄内
図書館サポーター	登録ボランティア	13	庄内
		7	野畑
見守りサポーター	登録ボランティア	9	庄内
地域情報アーカイブ化事業 （北摂アーカイブス講演会・写真展・編集会議等）	地域情報アーカイブ化事業実行委員会・地域フォトエディター	6	岡町
北摂アーカイブス写真展	地域情報アーカイブ化事業実行委員会	(16)	蛸池
		(23)	千里
音訳ボランティアフォローアップ講座（含：選定会議）	グループエコー・大阪声のグループ 他	3	岡町
おかまちおやこでにほんご	おやこでにほんご	18	岡町
しょうないおやこでにほんご		3	庄内
せんりおやこでにほんご		14	千里
コラボ大学校	千里文化センター市民実行委員会	1	千里
多文化カフェ		4	千里
ブック・トーク&トーク「この本読んだ会」		3	千里
千里親子ふれあい広場	赤ちゃんからのESD	2	千里
YAボランティア活動（ふゆのおたのしみ会等）	YAらぼ	14	千里
たかがわ地域子ども教室	千里ネイチャークラブ 等	5	高川
図書館の未来を考えるオンラインミーティング	市民	4	岡町

事業名	団体名	開催数 (日数)	実施館
里親制度説明会・相談会・パネル展	児童養護施設翼 大阪西本願寺常照園	1	野畑
ユニセフ写真展 「新型コロナウイルスとたたかう世界の子どもたち」	大阪ユニセフ協会	(15)	千里

4. 子ども読書活動推進計画

「第2期豊中市子育て・子育て支援行動計画 こどもすこやか育みプラン・とよなか」に継承した「豊中市子ども読書活動推進計画」の理念に基づき、関係部局・施設・団体・市民と連携しながら、子どもの権利を保障するため読書活動の推進に取り組んでいる。

令和2年度は第1回子ども読書活動連絡会を書面にて開催。各委員にアンケートを実施し、読み聞かせに関する著作権情報などを提供した。第2回では、「2020年度とよなか子ども読書マップ」の更新とともに、国や府の子ども読書活動推進計画の動向や「図書館おはなし会ガイドライン」の情報提供、アンケート結果や外出自粛期間中の現場での取り組みの報告などにより、コロナ禍における活動のヒントを得る機会とした。



第2回子ども読書活動連絡会

今後も「子ども読書活動連絡会」の協力体制のもと、子どもの読書活動の推進に取り組む。

5. 事業報告

◆ 暮らしの課題解決

図書館では市民生活のうえで特に関心の高い課題として、4つのテーマ「医療・健康情報（岡町）」・「多文化共生（庄内）」・「ビジネス・就労（千里）」・「子育て・DV（野畑）」を設定している。新型コロナウイルス感染拡大により、関係部局・機関と連携したセミナーの開催などが困難となる中、引き続き各テーマにそった資料収集や情報提供などの取り組みを充実させた。

各テーマごとの取り組み（市民協働事業については別途掲載 9 ページ）

<p>医療・健康情報</p>	<p><講座、関連資料の展示・貸出></p> <p>○認知症サポーター養成講座（5回 会場：岡町、庄内、千里、東豊中、高川図書館 共催：長寿安心課・豊中市キャラバンメイト連絡会）</p> <p><その他></p> <p>○パスファインダー「感染症」の作成</p> <p>○「認め合い、知って納得！認知症情報コーナー」設置（蛭池図書館）</p> <p>○「医療情報コーナー」設置（蛭池図書館）</p>
<p>多文化共生</p>	<p><選書></p> <p>○とよなか国際交流協会を通して、市内にお住まいの外国語を母語とする方々へ読みたい本、必要とする本（外国語で書かれたもの）のニーズ調査を実施</p> <p>○書店が開催する外国語資料の選書イベントに参加</p> <p><多文化コーナーのPR></p> <p>○「日本語教室」（会場：庄内公民館、主催：とよなか国際交流協会）での情報提供（関連資料のリスト作成・本の紹介、外国語版の「豊中市立図書館を使う方へのお知らせ」（貸出のきまり）を設置）</p> <p>○雑誌「みんなの図書館」4月号に「豊中市立図書館における多文化共生サービスについて」を寄稿し、サービスを紹介</p> <p><配本・貸出></p> <p>○とよなか国際交流協会への外国語資料の配本・貸出</p> <p><その他></p> <p>○図書館 Web サイト上にある「がいこくごのほんのさがしかた」を改訂</p>
<p>ビジネス・就労</p>	<p><ブックリストの提供></p> <p>○とよなかまちゼミ（主催：meet-upとよなか オンライン講座と少人数での対面講座をメインに実施。参加された店舗のゼミのテーマに沿ってブックリストを作成し提供）</p> <p><ビジネス・就労支援サービスのPR></p> <p>○豊中市でのビジネス支援の取り組みに関する神戸市からの視察において、図書館のビジネス・就労支援サービスについても紹介</p> <p><配本・貸出></p> <p>○豊中しごとセンター（所管：くらし支援課）へのビジネス・就労支援関連資料の配本・貸出</p>

子育て・DV	<p><説明会・相談会></p> <p>○里親制度説明会と個別相談会（共催：児童養護施設 大阪西本願寺常照園・児童養護施設 翼）パネル・関連資料の展示と貸出（会場：野畑図書館）</p> <p><ポスター展・パネル展></p> <p>○10月里親月間 里親制度に関するポスターの掲示・関連図書の展示と貸出（共催：子育て相談課 会場：庄内、野畑図書館）</p> <p>○里親制度に関するパネル・関連資料の展示と貸出（会場：岡町図書館）</p> <p><その他></p> <p>○パズファインダー「子育て」の改訂</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◆ レファレンスサービス

資料をつかって日常の疑問や、仕事で必要な情報など、市民のさまざまな調べもののサポートをしている。関連機関や相談窓口・専門家の紹介もおこなう。

レファレンス記録の一部は国立国会図書館レファレンス協同データベースへ登録し、Web公開している。令和2年度のレファレンス協同データベース被アクセス件数は、参加館851館中第6位となった（令和2年12月31日現在）。市町村立図書館の中では、平成27年度以降6年連続で第1位である。

令和2年度は緊急事態宣言による臨時休館中に、Webサイトで新型コロナウイルス関連サイトのリンク集などを公開し、更新を続けて情報提供をおこなった。また、新型コロナウイルスや、メディアリテラシー、自宅での過ごし方などのレファレンスPRポスターなどを作成し、公開した。

来館でのレファレンス相談の件数は令和元年度に比べて減少したが、e-レファレンスの件数は増加した。

調査事例紹介：その49

コロナウイルスとは何か／メディアリテラシーを学べる本

豊中市立図書館には、毎日いろいろな調査の依頼が届きます。そのうちの一部をご紹介します。

Q. コロナウイルスとは何か。

A. 『岩波生物学辞典』（岩波書店 1996）p490のコロナウイルスの項目には「ウイルスの一種。（略）ヒトにカゼの症状をおこす。（略）形状が太陽のコロナに似るところから命名された」など記載があります。ほかにも『感染症の事典』（朝倉書店 2004）、『イラストでわかる微生物学超入門』（南山堂）や、国立感染症研究所のウェブサイトにもコロナウイルスについての記述があります。

Q. SNS やインターネットなどのメディアリテラシーを学べる本。フェイクニュースに騙されない、トラブルに巻き込まれないようにする方法について書かれた本はあるか。

A. 豊中市立図書館ウェブサイトの蔵書検索「詳細検索」から、件名の欄に「メディアリテラシー」や「情報倫理」を入れて検索すると、以下のような資料が検索結果にでてきます。

- ・『その情報はどこから？ ネット時代の情報選別力』（筑摩書房 2019）
- ・『ネットで読む情報リテラシー あの人はずいぶん騙されないのか』（筑摩書房 2019）
- ・『情報モラル教育 知っておきたい子どものネットコミュニケーションとトラブル予防』（金子書房 2018）

【児童書】

- ・『池上彰と考えるフェイクニュースの見破り方 1 「正しい情報」って、なに?』（文芸春秋 2019）
- ・『情報モラル学習 迷惑をかけない、被害にあわないネットのルール 第1巻』（理論社 2019）

事例について詳しく知りたい方は、豊中市立図書館のサイトの「調べる／相談する」→「レファレンスサービス」→「レファレンス事例をさがす」から、キーワード「コロナウイルス」、「メディアリテラシー」で検索してみてください。

調査事例紹介ポスター・チラシ

◆ 個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

令和2年度の個人有効登録者数は3.6%減少。継続貸出を除いた成人書の個人貸出冊数は19.8%減少。年齢別貸出人数（15才以上）は19.2%減少している。緊急事態宣言発出による全館臨時休館および服部、高川図書館の空調設備改修工事の休館による影響が顕著である。これに比して個人予約件数の減少は0.29%に止まる。年度当初に一月半ほど新規の予約受付を停止していたにも関わらず、前年度と比べて横ばいの個人予約件数を維持した。とりわけ図書館Webサイトによる個人予約件数は7.4%増加している。各館カウンター窓口・館内OPACによる個人予約受付件数は、28.5%の減少であることから、インターネット予約が非来館型サービスとして一定の役割を果たしたと考えられる。

臨時休館中は、感染拡大防止対策をおこないつつ、館内掲示物や各種案内サインの整理・新設、蔵書の更新作業などをおこない、再開時により魅力的な図書館になるよう各館で工夫をした。

- | | | |
|--------------------------------|--------------------|--------------------------|
| ■登録率 34.6% | ■個人有効登録者数 138,699人 | ■年齢別貸出人数（15才以上） 651,869人 |
| ■継続貸出を除く個人貸出冊数（成人書） 1,378,658冊 | | ■個人予約件数 761,610件 |
| ■個人予約件数（Web+携帯） 644,245件 | | ■個人予約件数（館内） 117,365件 |

<こども室・児童書コーナー>

14才以下の個人有効登録者数は6.8%減少、年齢別貸出人数も17.1%減少した。また、児童書の貸出冊数は12.2%の減少、個人貸出冊数は10.3%減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての全館臨時休館やサービスの制限、服部図書館と高川図書館の空調設備改修工事の休館などが要因としてあげられる。

各館では、感染拡大防止のため、おはなし会などの行事は休止した。また机や椅子、畳などの撤去や配置換えをおこない、少しでも安全・安心に利用ができるようレイアウトを変更した。感染の落ち着いている時期には、規模の縮小や予約制とするなど、状況に合わせた工夫をしながらおはなし会や工作教室などをおこなった。

4月の全サービスの停止期間には「おうちで読みたい絵本リスト～就学前のお子さんへ～」として、3～5才の子どもとその保護者を対象とした絵本リストと動画「おうちで絵本編」・「ブックトーク編」を作成し公開した。また、担当エリアを徒歩でまわり、地域課題の把握につとめた館もあった。

夏休みには、「豊中子ども文庫連絡会」との共催事業「子どもと本のまつり」で、本の福袋の貸出を多くの館でおこなった。

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| ■個人有効登録者数（14才以下） 22,772人 | ■年齢別貸出人数（14才以下） 125,634人 |
| ■継続貸出を除く貸出冊数（児童書、団体含む） 939,137冊 | |
| ■継続貸出を除く個人貸出冊数（児童書） 865,337冊 | |

◆ ブックスタート事業「えほんはじめまして」

絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを過ごし、心ふれあう時間を持つきっかけとなることを目的とし、子育て・子育て支援事業の一環として4か月児健康診査時に実施している。図書館と母子保健課、そして「豊中子ども文庫連絡会」・「おはなしボランティアポケット」をはじめとする市民ボランティアが連携・協働し、健診を受ける一組一組に言葉をかけ、絵本を手渡してきた。

この事業は、母語が外国語の人や障害のある人を含む、市内のすべての赤ちゃんと保護者と関わりを持つ貴重な機会である。新たな図書館利用の促進とともに、関係部局やボランティアスタッフとの協働によりさまざまな情報提供をおこなうことで、地域の子育て支援サービスと市民をつなぐ役割も果たしている。

しかしながら令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来とは異なり4か月児健診の会場において母子保健課を通じて引換券を配布、後日図書館にてブックスタートパックと引き換える形をとった。

スタッフミーティングについてもオンラインによる講座を開催。NPOブックスタート職員に講師を依頼し「ブックスタートとは」・「ブックスタートのあゆみ」から始まり、ほかの自治体のブックスタートの現状や工夫などについての講義を受け、スタッフが理解を深める機会とした。



オンラインによるスタッフミーティング

◆ ヤングアダルト（YA）サービス

ヤングアダルト（YA）とは、おもに中学生・高校生（12～18才）の世代を指す。個人有効登録者数は12～17才が3.6%減少、18～21才は3.2%減少。年齢別貸出人数も減少傾向にあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての全館臨時休館やサービスの制限、服部図書館と高川図書館の空調設備改修工事の休館による影響も考えられる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の取り組みが中止になることも多かった。一方で、中学校図書委員が紙芝居を読み聞かせしている姿を撮影したものをDVDに収録しエリア内小学校へ配布するなど、工夫してサービスを提供した。

千里図書館で活動するYAらぼ（YA世代のボランティア）は、新しく2人のメンバーを迎え、計8人が登録。実際に集まったの活動は必要最低限に抑え、メールでのリモート活動をおこなった。「YA! BOOKS通信」の作成ほか、中止になった「ふゆのおたのしみ会」の代わりに感染対策を講じた「ミニときどき！おはなし会」（不定期開催）に参加し、絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちやその保護者との交流の機会をもった。また、同世代におすすめしたい本のPOPを作成した。



ミニときどき！おはなし会

■個人有効登録者数 12～17才 17,080人 18～21才 6,098人

■年齢別貸出人数 12～21才 48,109人

おもな取り組み	実施館
エリア内の小中学校と連携し夏休み中にスタンプラリーを実施	高川図書館（公共のみで実施）
子ども読書活動フォーラム関連資料の展示	岡町図書館
市内高等学校への学校訪問（岡町からも同行）、YA!BOOKS通信19号発行（チャート式おすすめ本紹介）、千里青雲高等学校文化部発表会において図書館紹介のブース設置、おすすめ本POP展示（千里青雲高等学校図書委員・YAらぼメンバー・職員による）、YAらぼメンバーの「ミニときどき！おはなし会」参加、高校情報パンフレット展示と配布	千里図書館
第二中学校生徒調べ学習展示、高校情報パンフレット展示と配布	野畑図書館
エリア内小中学校連携巡回POP展示	東豊中図書館
第四中学校・第十六中学校との連携展示	服部図書館
第十二中学校生徒によるエリア内小学校での紙芝居会（新型コロナウイルス感染防止のため紙芝居会を収録したDVD配布による実施）	高川図書館
学校図書館の活動紹介と作品展示、高校情報パンフレット展示と配布	蛭池図書館

◆ 高齢者サービス

長寿安心課および「豊中市キャラバン・メイト連絡会」と共催して「認知症サポーター養成講座」を岡町、庄内、千里、東豊中、高川図書館の5館で実施した。

庄内図書館では来館者のニーズに合わせ、ストレッチ、スマートフォンの使い方、一人分の食事レシピなど老後の前向きな暮らしを考える資料を集めた「シニアライフ応援コーナー」を設置している。令和2年度の貸出冊数は1,337冊であった。

また同コーナーに「とよなか縁結実^{えんゆうみ}」（地域包括ケアシステム・豊中モデル）と連携し、当団体で実施している、スマートフォンを使って参加できるイベントのチラシを置いている。

そのほか高齢者施設向けの団体貸出や配本サービスもおこなっている。なお庄内図書館では、平成26年度から市全域の高齢者施設に団体リサイクルによる資料譲渡の機会を提供している。令和2年度は6施設、609冊の利用があった。

また、高川図書館では地域子ども教室を開催。高齢者の経験と特技・能力が地域に還元されるとともに異世代交流の場へとつながっている。

図書館協議会からの「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について（報告書）」も踏まえ、今後も高齢化社会に対応し、状況に応じたきめ細やかなサービスをおこなっていく。



高齢者施設むけ団体リサイクル会場



◆ 障害者サービス

緊急事態宣言発出による臨時休館にともない、来館による対面朗読サービスを中止し、5月から「ICレコーダーによる代読録音サービス」*1、令和3年2月からはWeb会議システムを活用した「オンラインによる対面朗読サービス」*2を実施した。また対面朗読サービス再開後は、利用者とボランティアの間にパーテーションを立て、両者の距離を取り、部屋の換気や消毒などの対策をとった。「音訳ボランティアフォローアップ講座」*3は、感染の広がりなどを見ながら、対策をとり2週連続で実施した。

点字図書や録音図書の貸出が増えたが、とくに郵送（盲人用郵便物は無料で送付可）による貸出が伸びており、コロナ禍の需要増に対応できた。

障害者週間がある12月に、展示「すべての人へ本の喜びをpart2」をおこなった。障害への理解や、公共図書館の障害者サービスの利用促進につなげるため、障害に関する資料や、点字図書や録音図書、「りんごの棚」*4を展示した。資料を製作するボランティアグループの紹介と、他部局の関連チラシ類も置き、広く障害に関する情報提供の機会とした。

Dai-ga-sグループ“小さな灯”運動北東部支部より、プレクストークPTN3*5の寄贈があった。希望する利用者への貸出用機器として活用していく。また伊藤忠記念財団よりマルチメディアデジターわいわい文庫の寄贈があった。

今後の課題として、資料や機器を必要とされる人へのPRや担当職員の技術習得などが必要である。また、市立小中学校児童生徒へのタブレット（必要な児童へはあわせて点字ディスプレイ*6）の配備・読書バリアフリー法の施行などの環境の変化を受け、サービスのあり方を模索していく。

*1 利用者が希望する資料の朗読をICレコーダーに録音し、CDで提供。本人や家族、ヘルパーを介しての資料受け渡しとなった。朗読は職員やボランティアグループがおこなった。4人8件の実施があった。

*2 Web会議システムを利用し、オンラインで利用者と朗読者が別室で対面朗読をおこなう。事前の申し込みを受け、朗読者の調整、資料の用意をする。時間は従来の対面朗読サービスと同じ2時間以内。

*3 例年秋と冬に各1回ずつ、音訳ボランティアの技術向上のため実施。

*4 活字を読むことが困難な子どもたちの読書の手段を紹介する展示セット。所蔵の大活字本、点字付きさわる絵本などの多様な資料と展示用面展台などがセットになっている。

*5 視覚に障害のある人が音声で読書するための卓上型デジター図書再生専用機。

*6 点字を出力するための機器。パソコンに接続し、パソコンの画面上に表示されている情報を、平面上に開いた穴からピンが出ることで点字として読み取ることができる。

◆ 行政へのサービス（庁内仕事応援事業）

庁内各部局に対する資料の貸出やレファレンスサービスに加え、各職階の新任職員研修（課長級・課長補佐級・係長級・5年目・新規採用）や課題研修での業務に役立つ情報の提供をおこなっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により研修が延期または中止となったため、実施方法を見直し、ブックリストの配布や庁内サイトへの掲示など、接触をともなわない方法で実施した。あわせて図書館が庁内向けにおこなっているサービスの発信について、名称を「豊中市立図書館庁内仕事応援」に変更。サイトの整理をおこない、わかりやすい情報発信につとめた。レファレンスは、「新しい生活様式に対応した認知症徘徊模擬訓練について」や「新型コロナウイルス流行後の社会変化を踏まえた市のデジタル化関連政策」など「アフターコロナ」を見据えた行政サービスについての依頼が多かった。

◆ 団体へのサービス

学校、放課後子どもクラブ、幼稚園、保育所（園）、こども園、高齢者施設、障害者施設、子ども文庫・おはなしボランティアグループ・読書会などの市内の活動グループに資料貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

学校内での児童・生徒のリクエスト対応の支援や、調べ学習に使用する資料の提供など、基本的なサービスを実施した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく小中学校図書館への貸出冊数は、前年比12.0%減少となった。毎年2回開催している学校司書と公共図書館司書との地域館交流会は、1回のみ対面で実施し、コロナ禍における課題の共有をおこなった。例年、各地域で学校と公共図書館が協力連携して、展示やスタンプラリーなどをおこなっている。蛭池図書館では学校図書館活動紹介のロビー展を、高川図書館では開館20周年記念行事「夏休みスタンプラリー」を実施した。ほかにも高川図書館では、担当エリアの小中学校卒業生全員に高川図書館YAコーナーのPR文を、小中学校教員には教員支援用資料の中から貸出ベストを紹介するおたよりを配布した。

岡岡図書館の団体リサイクル常設コーナーには、新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校期間を活用して、例年より多くの学校司書が来場し、学校図書館や学級文庫の本を選んだ。利用校数は令和元年度の6校から27校に、利用冊数は145点から1,066点に増えた。

■小中学校図書館への貸出冊数 52,379 冊（継続貸出9,835冊含む）

<学校図書館支援ライブラリー>

学校図書館の「読書」・「学習・情報」・「教員支援」の3つの機能をサポートしている。蛭池図書館所蔵の教員支援用資料は利用が順調に伸びている。各教科関連資料のほか、学級経営・学習指導に関する資料もよく利用された。

岡岡図書館のパッキング資料（調べ学習サポートパック・図鑑セット・総合百科事典ポプラディア）については、特に図鑑、総合百科事典ポプラディアの利用が多く、調べ学習サポートパックについても利用日時が重なり要望に応えられないこともあった。令和2年度は図鑑の冊数の追加と、「昔のくらし」調べに使える本を複数冊追加購入した。

<幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後子どもクラブなど>

幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育所に、季節や行事などに関係する資料の貸出をおこなっている。貸出や受取場所などについて各施設の相談にも応じ、選書・配本の協力をしている。小学校の放課後子どもクラブには図書館が選定した定評のある本・紙芝居などを配本・貸出している。令和2年度はコロナ禍で図書館休館中の臨時的サービスとして、障害児通所支援事業所17か所に団体貸出セットの配本「えほん配達便」を実施した。また、児童養護施設とコロナ感染で休園になったこども園3か所への配本サービスをおこなった。

<子ども文庫>

市内の子ども文庫は12文庫。そのうち「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は9文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また、子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根づいている。図書館からは文庫活動を支援するために長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供し、サポートにつとめている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、休止する文庫もあったが、時間や人数を制限し、感染防止につとめながら活動する所もあった。

毎年、豊子連と共催で「子どもと本のまつり」を実施しているが、令和2年度は「子どもと本のまつりレー」とし、福袋と工作セットの配布を図書館と文庫でおこなった。同じく共催事業の「子どもと本のつどい」では、岡町図書館を会場に「こしだミカ絵本原画展」を開催するとともに、生物学者・本川達雄さんと絵本作家・こしだミカさんを講師に「まるごと楽しむ絵本ナマコ天国」を開催、Web会議システムによるライブ配信も同時におこなった。



「まるごと楽しむ絵本ナマコ天国」Web 配信



子どもと本のまつりレー

<おはなしボランティア>

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により図書館の集会室利用ができない期間があり、多くのボランティアグループが場所を変えながら、子どもへの読み聞かせのほか、自主的な勉強会や例会、講座など活動を続けた。図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取り組み事業」（9ページ）を参照。「子どもと本をつなぐボランティア講座」（全6回）を実施したほか、「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」は、令和3年3月に日本図書館協会児童青少年委員会委員・川上博幸さんを講師に、「この絵本を届けたい！～紹介文を書いてみよう～」をテーマに書面開催した。完成した紹介文を活動先の子どもたちに届けたグループもあった。

◆ 動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

図書館から離れた地域や来館が困難な子どもたちの通う施設へ、動く図書館車に約3,000点の資料を載せ、16ステーションおよび10施設を約4週間に1回の頻度で巡回した。一般ステーションの「ゴッツ下」は、より多くの方が安全に利用できる「刀根山元町北会館」へ移転した。施設への巡回のうち、こども園・保育所（園）への巡回サービスは令和3年3月末で終了し、配本に移行した。

5月までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、巡回中止やサービス縮小が続き、個人貸出人数は減少したが個人貸出冊数は増加した。服部緑地都市緑化植物園では「動く図書館@植物園～みどりのライブラリー～」を開催したほか、「とよなか市民環境展2020」に参加。また一般ステーションに庄内西小学校3年生が訪れ、動く図書館見学をおこなった。植物園でのイベントやステーションでの見学は、屋外という特性を活かして実施することができた。

年度後半には、感染対策をおこないながら児童発達支援事業所あゆみで通園児を対象に「おはなし会がやってきた！」を、こども園・保育所（園）の卒園児を対象として4施設で「卒園おはなし会」を催した。

■貸出人数 5,566 人

■個人貸出冊数 36,075 冊

◆ 図書室

いぶき図書室には約 7,400 冊の資料があり、週 2 回午後 1 時から午後 5 時まで開室している。また、月 2 回図書室職員とボランティアの協力によりおはなし会をおこなっている。

利倉西センター図書室には約 4,300 冊の資料があり、週 2 回午後 2 時から午後 5 時まで開室している。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開室日数が減少したにもかかわらず、利用実績は、利倉西センター図書室は微減にとどまり、いぶき図書室については貸出冊数が 2 割以上増えた。

いぶき図書室の利用が増加した要因は、近隣の服部図書館が空調設備改修工事で半年近く休館した影響によるものと考えられる。

「青年の家いぶき」の改修工事にともない、1 階にあるいぶき図書室は令和 3 年 3 月 20 日より休室している。

(いぶき図書室)	■貸出人数 6,424 人	■貸出冊数 22,214 冊
(利倉西センター図書室)	■貸出人数 2,019 人	■貸出冊数 5,794 冊

◆ 資料の収集と保存

収集に関しては毎週 1 回、職員で構成する選書委員会で、市内全図書館の資料の選書をおこなっている。「豊中市立図書館資料収集方針」（図書館 Web サイトで公開）に基づき、市民の主体的な生涯学習活動を支援していくために市民の要望および社会の動向にも配慮しながら、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常の生活に役立つ資料を収集している。

令和 2 年度も引き続き「暮らしの課題解決」支援サービスに関わる資料の整備に取り組んだ。新型コロナウイルスの影響で、書店での現物確認などに支障をきたしたが、図書館が果たすべき使命や役割を念頭に置きながら、リクエストやレファレンス内容の分析をおこなうと同時に、府立図書館や他市の図書館との相互貸借制度・広域利用も活用し、利用者への多様な資料・情報提供をめざす。保存のための書庫スペースに限りのある中で、(仮称)中央図書館基本構想を踏まえた豊中市立図書館の蔵書の構築および保存につとめていくことが課題である。